

LS 四国ロードマップ作成検討のためのアンケート集計結果概要

実施期間：2024 年 6 月 14 日（金）～2024 年 7 月 8 日（月）

回 答 者：138 名（アンケート回答数 138 件、回答率：100%）

1. 自身や他団体の活動において四国で SDGs の課題解決に資する好事例（抜粋）

活動名	概 要
四国中央市カーボンニュートラル協議会	事業者、自治体、地元地方銀行、地元教育機関、地元業界団体等が連携し、2050 年カーボンニュートラル実現に向けた取り組み。
減災教育普及協会	自団体の取り組み（徳島、愛媛、高知） ①子どもが地震に強くなるイベント、こどもユレタキャラバンの展開 ②子どもに防災教育を教えている保育・教育者の防災教育アップデート支援 ③地域の減災力向上支援（自治会、コミセン、児童館への減災教育） ④企業の減災力向上支援 ※多くの実績があります。四国内にもっともっと活動を広げたいと思っています。 現在、支援者・資金ともに足りていない状態
上勝町	いそどり事業、ゼロ・ウェイスト事業 リサイクル率 81%を誇る上勝町がごみの減量に町挙げて取り組み、「資源回収法制定にむけて国に要請する」請願を町議会で可決した
株式会社ベルモニー（松山）	①女性リーダーの選出 ②地産品を返礼品やイベントギフトに ③施設照明の LED 化
有限会社ハイプラ	ペットボトルキャップの回収が本当に広く認知（保育園での散歩でひろったり、個人のお宅から企業まで持込件数が増えた。） 回収物から製造したリサイクル品による市町村や地域の高校生が主体でのイベント開催。 小さなごみから日々の暮らしへエシカルな考え方を落とし込んでいる。
愛媛ダイビングセンター	団体 HP http://wwwd.pikara.ne.jp/ehime-dive/
愛媛県地球温暖化防止活動推進センター	気候コミュニケーション事業を講師派遣料無料でやっている点（講師もセンターのプロパーでなく、県内在住の地球温暖化防止

	活動推進員等を派遣) センターにも、推進員にも実績が積み上がる（スキルやノウハウが蓄積される）形となっており、まさにパートナーシップによる意識変容・行動変容の仕組みができています。
好循環な里海づくり	—
高知オーガニックマーケット及び高知オーガニックフェスタ	高知オーガニックマーケット HP http://kochiom.web.fc2.com/
NPO 法人黒潮実感センター	団体 HP https://kuroshio.asia/
新居浜グローバルネットワーク	資源循環型社会実現に向けて、プラスチックリサイクル研究会（新居浜市 SDGs 推進プラットフォーム分科会）活動やプラスチックスマート学習会（市民レベル活動の成果（CO2削減）の見える化）を推進中
株式会社 LIHO ライジング	脱炭素、CO2 削減に対する自家消費太陽光発電の弊社からの働きかけ、導入が増えました。
株式会社アドライト	脱炭素ソリューションのマッチングプラットフォーム
せとうち J ブルー	登録会員の「(株) ネグシ」との連携活動で熱（冷・温）の有効利用・・・クールスポット、農業などへの応用
室戸	当会では UNESCO グローバルジオパークであることを強みに、地元高校と連携協定を結び、高校生が、大地の成り立ちと地域産業との関係や、そこで暮らす人々の生活や文化など、郷土学習の機会を提供している。また地方の小規模高校であっても、世界ジオパークネットワークを通じた国際交流の機会が多くあり、「SDGs4 質の高い教育」の推進に寄与している。
YMCA 阿南国際海洋センター	当施設での海岸漂着ゴミに対するワークショップ
Sustech	エネルギーコストの域内循環に資する取り組みとして、コーポレート PPA（オンサイト、オフサイト）の提供をしている。全国での具体的事例としては、ニトリ HD 様へ計 80MW の PPA 導入が順次進んでおり、将来的に年間 12 億年のエネルギーコスト削減が想定されている。
一般社団法人宇和島 SDGs 社会教育事業団	https://sdgs-uwajima.com/
脱炭素推進研究会	脱炭素に関心のある四国の産学官（実務者レベル）のネットワークを形成し、知見の共有やマッチングを促進させることで、四国におけるグリーントランスフォーメーションの深化・加速につな

	げていくことを目的に研究会を設置し、機運醸成に努めている。
株式会社タイチ	弊社では、毎月1回海のゴミ拾い活動を地域の方々と実践 藻場作りも子供たちを巻き込んで地域ぐるみで実施
えひめ脱炭素経営コンソーシアム(設立)	本社ビルに加え、研修所ビルの使用電力を再生可能エネルギーへ切替
エヌ・ティ・ティコミュニケーションズ株式会社四国支社	循環型社会の実現に向けた新たなビジネスモデルを展開しており、それらモデルの拡大に向け取り組んでいます。 例：ヤンマーとNTT Com、水稻栽培でのメタンガス削減とJ-クレジット創出における新たな取り組みを開始 https://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2023/0802.html

→取り組み紹介があった主体へ SDGs 表彰の案内を行う（取材に伺う）

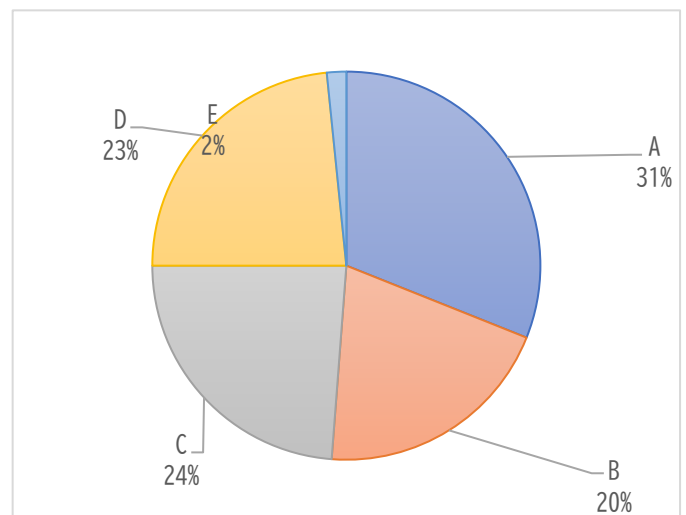
その他意見

- ・ PR や発信力
- ・ といった事例を好事例とするのか、そこからの議論が最も重要
- ・ 異業種の少人数の会話の機会が少ない
- ・ 地域の観光行政に環境問題を取り入れることをコンサルティング時にアドバイスした。

2. 四国で SDGs 達成に向けて取り組むにあたっての優先課題（抜粋）

回答者の優先課題は、「ローカル SDGs の考え方を実践する場づくり」が 77 名（31%）で一番多く、次いで「イノベーションの導入や ESG の視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上」の 59 名（24%）であった。

項 目	回答数
A. ローカル SDGs の考え方を実践する場づくり	77
B. ローカル SDGs の視点をもった創り手の発掘、育成	50
C. イノベーションの導入や ESG の視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上	59
D. 自然と人が共生する循環型社会（生物多様性の保全、資源循環等）の構築、脱炭素化へのパラダイムシフト（発想転換及び行動変容）	58
E. その他	4
合 計	248



→回答数に差異ができることを想定していたが、ほぼ同数であり、すべての取り組みを連動させ、バランス良く取り組む方向性としていたい。

その他

①広報

周知力が弱い。活動の可視化と強力な広報活動展開が必要。省エネ・地球温暖化防止活動に繋がる様に市民への啓発活動。

②適切な課題設定

- 循環型社会達成項目を踏まえた分析。
- 減災対策の構築。
- 地域活性化とシビックプライド（地元に対しての誇りや愛着）の醸成。
- 高齢化による人材不足
- 日本の環境問題意識の遅れは、実践的や現場感のある人材が上にたっていない。
- 福祉と農業の関連づけと生産方法の最適化と広域観光（瀬戸内海エリア）。

③具体的な行動

- 実践事例の収集（多度津高校建築クラブ生徒と舟岡山・二反地川域。能登半島震災被害者家族（移住予定）と活動域内にて計画準備中。ボチボチの山業の取組。高知県有機農業推進協議会が発足。有機農業に限らず、いわゆるグリーンシフト全体を議論できる場にしたい。）
- 支部ごとのディスカッション、オフ会の開催。
- 企業の GHG 排出量可視化から取り組むこと。
- 使い捨てプラスチック容器包装は、生産抑制をする。国が幅広くデポジット制度を取り入れ、企業には自社製品を回収しリサイクルする義務を負わせる（廃棄物再資源化）。
- 経済の活性化に結びつくイノベーションが必要
- ステークホルダーがつながる対話の場、次のアクション、協業ビジネスにつながる場を。同業種間の意見交換会（弊社は冠婚葬祭業につき、大きな分類で接客サービス業）。
- 地域にある資源を 3R して、展示会やコンテストを行い、全国へ販路開拓する試み。
- 南海トラフ地震による液状化被害の可能性調査及び対策。

④連携

- えひめ脱炭素経営コンソーシアムの設立
- ビーチクリーンアップ活動への若者の参加、大学生の研究や課外活動での広がり
- 異業種の小分科会の行動（例えばスマート農業の取り組みとか）。

⑤意見

- ・日本の教育の変革 社会の課題に気付き、自ら行動を起こし、振り返りながら責任ある行動をとることに主軸を置くような学校が選べる。
- いずれの文言は持続可能な地域づくり（LS 四国）に必要な要素であることから、ロードマップ議論の際にキーワードを紹介し追記していくようにする。

3. LS 四国のプラットフォームが果たすべき役割・期待する役割（抜粋）

①情報発信

- ・ 各省庁の補助金、SDGs やカーボンニュートラルに関するセミナーの開催情報。
- ・ 他社の優良な取り組み事例等 SDGs に関する最新情報
- ・ 情報（人的資源含め）の交流（発信）
- ・ カーボンニュートラルに向けた積極的な情報発信
- ・ 各会員の活動を周知する場
- ・ 四国地域で取り組める助成金、イベントの告知、会員や HP を通じた SDGs 推進の啓発。
- ・ 国等の補助事業に関する情報及び脱炭素等に関する先進地事例等の情報提供を期待します。
- ・ 情報発信ならびに市民への LS 四国のブランディング活動を期待します。
- ・ 全国事例紹介
- ・ 脱炭素は、化石燃料による発電、原発を中止し、再生可能エネルギーを増やす事で実現可能だと思います。また、省エネを普及する事も大切です。
- ・ 中学生年齢への情報発信に期待します。
- ・ 補助金の公募と、SDGs 活動の表彰とマスコミへの発信（支援賞金・副賞付き）。
- ・ 情報共有はありがたい、情報発信が多すぎると、タイトルを見ただけでスルーする。タイトルの工夫が必要。

②中間支援機能に求める役割

- ・ LS 四国会員及びその他の関係者の連帯と課題の共有の促進。
- ・ SDGs の課題解決に資する好事例の発掘・共有、SDGs の取組主体や推進主体のパイプ役。
- ・ イノベーションの導入や SDGs を取り入れたビジネスの創出及び地域経済の好循環です。
- ・ とにかく人をつなげて欲しいと思っていますが、そのためにまず、LS 四国の方々に私たちの取り組みの重要性（四国への必要性）を理解して欲しいです。
- ・ ローカル SDGs の視点を持った創り手の発掘・育成。
- ・ 意識の醸成、情報共有、巻き込み、実績の積み上げ
- ・ 各所が抱える地域課題解決に向けた縦と横のつながりや連携のサポート。
- ・ 各組織・個人が自主的・自発的に行動しようとする意識変容への手助け、基盤整備だと思います。
- ・ 産学官連携の企業との取り組みへの橋渡し役。
- ・ 四国外からの企業進出を阻み、四国外への人口（特に若者）流出を防ぐため。現状の課題や問題を把握し、LS 四国での解決や打開を思考・実行する。
- ・ 情報収集・発信、研修会等の開催。
- ・ 目的やキーワードからの具体的な事業スキームの構築サポートなど。
- ・ 他の分科会等との連携調整。
- ・ 人と人のつながり、企業と行政、NPO 等多様な主体の橋渡し。
- ・ 人や組織が課題に取り組める環境の構築。

- ・他団体との連携強化や協働活動の更なる推進。
- ・他分野が集う会であることを強みに、会員間の情報共有等によるネットワークのより一層の強化と、会員間での協働事業の実施。点を線にし、面での活動に繋げていくことで、SDGs 達成に向けた動きが電波していくと考える。

③プラットフォーム・ネットワークへの期待

- ・ネットワーク構築のハブ機能
- ・活発な企業同士のコネクション促進。目標数値や達成したコラボなど見える化して欲しい。
- ・会員交流の促進に加え協働のインフラ（ネットワーク）整備等に期待します。
- ・活動の共有と場所作り、後世がこれらの活動を必要と思えるような教育環境の整備。
- ・四国企業が連携して SDGs ビジネスを創出するためのハブ役。
- ・四国地方の経済の活性化。
- ・四国独自でしかできないオリジナル感を出していくこと。
- ・都市と農山漁村との地域経済循環の創出と調和。
- ・SDGs を取り入れたビジネスの創出及び地域経済の好循環が実現することを祈っている。
- ・活力あふれる四国地方の創造。

④求める場づくり

- ・四国内企業に対し、地域資源や経済の好循環につながる情報等の連携や知見を共有する場。
- ・四国4県の SDGs 達成に向けての活動支援・交流会の開催。
- ・事例等の共有、他団体等との交流の場創設。
- ・参考になる団体や企業、事例などとのネットワークを構築する場になることを期待します。
- ・ごみ減量、資源化など細かいテーマごとに参考となる情報提供の場を作成してほしい。
- ・広めたい、知って欲しいなど周知する場づくりを求めている。ミスマッチがアンマッチです。是非、業種が違う。観点が違うなど、面白みを持って個別情報をいただきたい。

4. LS 四国への意見（抜粋）

- ・山＋川と耕作放棄地の検討中。相談事が確定致した時点で相談したい。
- ・相談したいことは多くある、LS 四国に何ができるのかを知りたい。
- ・旅費を出して、高松に表彰に来させるのは、時間も経費も無駄である。せめて四国内の愛媛・高知・香川・徳島の応募者が平等に集まれる高知市を表彰場所として指定してもらいたい。表彰するだけなら、応募者は増えないと思う。表彰に選ばれる団体は、相当の活動が行われているのだから、活動の継続・進化のための支援金を賞金という形で出すべき。賞金や活動支援金すら予算化できない表彰なら、応募者も減るし良い応募者は賞金のある方に応募していくから、やめたほうがよい。

以上